

第 13 回 箱崎キャンパス跡地利用協議会

開催日時：平成 30 年 3 月 27 日（火） 13：00～14：15

場所：九州大学箱崎キャンパス 旧工学部本館 3 階第 1 会議室

会議次第

1. 開会
2. グランドデザイン（概成版）について
跡地まちづくりの検討状況について
3. その他
4. 閉会

配布資料

（配布資料）

【資料1】 委員等名簿

【資料2】 九州大学箱崎キャンパス グランドデザイン（概成版）

【資料3】 跡地まちづくりの検討状況について

【参考資料】 九州大学箱崎キャンパス グランドデザイン（概成版） 補足説明資料

議事要旨

1. 委員の出欠状況について

- 福岡県建築都市部都市計画課 櫻井課長技術補佐が代理出席
- 福岡市住宅都市局 田梅理事が代理出席
- 東京大学 出口副委員長が欠席
- 松田委員が欠席
- 九州経済連合会 平井委員が欠席
- 福岡商工会議所 中芝委員が欠席

2. グランドデザイン（概成版）について 跡地まちづくりの検討状況について

- 事務局より【資料2】【資料3】について説明

■ 質疑及び意見交換要旨

□ グランドデザイン（概成版）について 跡地まちづくりの検討状況について

委員	● 次世代社会インフラについて、基本戦略（案）に示す先進的なまちづくりに共感できる企業が来ることが、特徴があり活気があるまちにつながる。 ● 一般的な公募では商業施設などが中心になると懸念され、IT企業のような先進的なまちづくりに共感する企業が応募するか気になる。企業誘致は、市や大学のトップセールスという方法もあるため、公募と同時に考えていくのか。 ● また、景観形成について、努力事項として「レンガなどの九州大学の面影が感じられるモチーフを利用する」というデザインの工夫について記載があるが、既成市街地ではこのようなデザインコントロールが難しいため、跡地では是非このようなルールに同調していただき、他の地域では実現できない統一感のあるまち並みをつくっていただきたい。
事務局	● 次世代社会インフラについては、快適な暮らしを実現するための仕組みに向けて、サービスのイメージを示しながら、引き続き具体化に向け検討し、平成32年度の公募に反映していく。その中では、トップセールスなどのプロモーション活動等が非常に重要と考えており、引き続き取り組みたい。 ● 景観については、大学の面影や歴史を継承する意味で、レンガなどをデザインモチーフとするという形で記載している。今後このような基本的な考え方を踏まえ、デザインガイドライン等において具体的に検討していく。
委員長	● 市は景観の取組みとして、百道、アイランドシティ、六本松など色々な実績がある。都市景観形成地区の制度なども活用しながら、箱崎においても検討を進めていただきたい。
委員	● グランドデザインでは、ソフトとハードの両面を考えるものと理解しており、周辺住民の方、新規に進出される方に、分かりやすくアピールができる目玉があるとよい。 ● ソフト面では、次世代インフラの導入において箱崎らしさを出していくことが面白い取り組みだと思う。イノベーションを快適な都市空間の形成に繋げるといふ好循環を、他地区との違いとして出せるとよい。現在でも福岡市では、産官学共同の先進的な社会実験プロジェクトが実施されているが、その成果が実際の社会生活に埋め込まれることが必要である。そのような他地域との差別化に向けた提案を企業からいただければ、ワクワク感が生まれる。 ● ハード面についてはシンボルが欲しい。1年前に福岡経済同友会から、箱崎への政府関係機関の集積、J R新駅設置などの提言があり、新聞等で報道されて注目を浴びた。そのようなシンボリックなものは新しいまちづくりの情報発信にも役立つと思う。その後の動きがあれば紹介いただきたい。
事務局	● ソフト面について、「高質で快適な都市空間」と「イノベーション」の好循環を概念的に記載しているが、箱崎キャンパス跡地は九大が存在していた知の拠点であるため、イノベーションが生まれる場所にしていきたいと考えている。人と人、企業と企業が関わる中で、新しいものが生まれ、それが人々の快適なライフスタイル、暮らし方・働き方につながり、また色々な人の呼び込みにつながっていく。そしてそれがイノベーションにつながっていく、という好循環が生まれる意味でここに挙げている。具体的な進め方は今後検討だが、そのような視点で取り組みたい。 ● 前回の跡地利用協議会において、核となる施設が見えないとの意見をいただいております。公共施設を中心に検討しているが、現状としては「ない」状況である。経済同友会からの意見として、政府関係機関の集積および行政中枢機関の代替拠点、民間企業の本社機能の誘致、そして跡地の魅力を高めるための都市基盤

	整備の在り方として、J R新駅設置と貝塚駅との一体性強化などの話をいただいている。まちづくりに関する貴重な意見として、合同庁舎のような国の機関については非常に大きな話であり、福岡財務支局にも検討状況を説明し、意見交換を行っている。 ● 一方、J R新駅については、貝塚駅と近接した場所へJ R新駅を設置すべきとの意見をいただき、検討すべき課題の一つと考えている。J R九州とは、まちづくりの検討状況や新駅設置にあたっての課題などの意見交換を行っている。
委員	● スケジュールについて、前回協議会から今回プラットフォームという部分が増えただけで、この半年間何だったのかという気持ちが強い。今後、まちづくりをより具体化することだが、秋には箱崎キャンパス構内が空白となる不安もあり、スケジュールがこのとおりいくのか、また平成31年度には具体的に何があるのか知りたい。 ● また、市に積極的な関わりを持って、核となる施設を誘導していただきたい。近隣校区住民として、跡地に何が来るのか具体的なイメージを持ちたい。そのようなものが具体的に決まれば、スケジュール感もあらかた決まるのではないか。
事務局	● 「まちづくりの具体化」に向けては、これまで様々協議しており、平成32年に予定している都市計画の変更に向け、平成26年度に提案いただいた大規模集客施設の提案なども含め、このまちの機能として、誘導すべき都市機能が何なのか、改めて考えていかないといけない。 ● このエリアは交通計画、国道3号を中心として交通量に限界がある箇所があり、都市機能の配置や規模感、交通処理の関係を改めて整理しないといけない。そして特に用途地域の変更を検討するためには、どの街区にどのような機能を持たせるか検討が必要である。例えば、県立地ビジョンに対応するためのデッキの必要性や整備内容、維持管理の担保手法などの詳細について、平成30年度・31年度に事業者の意見を踏まえ検討したいと考えている。
委員	● 平成32年度には用途地域の変更が完了というスケジュールでよろしいか。
事務局	● 用途地域の変更の必要性を含めて整理したうえで、都市計画的な対応を考慮して、スケジュールの想定を行っている。
委員	● いわゆる原案の作成から、都市計画変更まで一年以上かかる。平成32年度に都市計画変更する場合、原案は平成30年度中にできていないと間に合わない。交通量の課題もあるため、レイアウトなどの検討は相当スピード感をもって行うべきである。また、原案が出てくれば最終的な都市計画手続きがなくとも、2年後にはこうなるから箱崎に留まってがんばろうという店なども増えると思う。そのためにも、一刻も早く原案を作って見せなくてはならない。 ● 私は昨年7月の九州北部豪雨で被害を受けた朝倉市と東峰村の復興計画策定の委員になっているが、早く原案を見せないと地域の方々が耐えられないという点では、箱崎も同じだと考えている。交通量などの課題は早く作業すればよく、朝倉市役所の方たちと同じように徹夜しろとは言わないが、急いでやっていただかないと地域の方々も福岡市を頼れないのではないか。 ● もう一つは、原案ができないとトップセールスもできない。都市計画の実現性や交通量など問題ばかり挙げていたら企業が来るはずがない。他の地域も企業誘致をしており、一日一日が勝負である。グランドデザインはこれで結構なので、具体的なスケジュール感を持ったアクションプランを是非お願いしたい。
事務局	● スケジュール感を含め早く将来像をお見せしたいと考えている。今回対話事業者にも、計画だけでなく事業性の観点からも意見をいただき、九州大学と一緒に検討を深度化させたい。
委員	● 箱崎中学校の移転後、現校舎をこれから起業する人たちの集積場所とし、イノ

	ベーションの拠点にできないか。校舎は数年前に耐震補強を完了しており、耐震上は問題ないため、そのような活用方法を具体的に考えるべきである。
事務局	● 箱崎中学校移転後の活用方法は、現時点で決まっていないが、用地は公共需要を確認したうえで、移転するための財源として検討を進めていきたい。
委員	● 現時点では中学校、公園以外の公共施設の立地の意向はないとのことだが、2月に箱崎キャンパス内で新たに元寇防塁と思われる石積み遺構が見つかったとの新聞報道があった。元寇防塁であれば700年以上の歴史があるため、一つのシンボルにしてはどうか。
事務局	● 石積み遺構は先日も九州大学が調査結果を発表しており、今後はその遺構が文化財的にどのような価値があるのか、元寇防塁なのか、史跡として指定される範囲はどうなるのか、を議論していかないといけない。 ● 文化庁、市・経済観光文化局などが中心となって、(仮称)遺跡評価委員会を立ち上げて検討していくと伺っている。検討状況も踏まえ、跡地のまちづくりにどう活かしていくのか考えていく。
委員	● ハードとソフトの両面に不確定な要素があるため、これらのまとめ方が非常に大事である。政府関係機関誘致などに加え、新たな要素として次世代社会インフラ(プラットフォーム)、エリアマネジメントなどもある。誰もやったことのない先進的なマネジメントの考えを深掘りし、それを発信していくことによって、新たな企業などが進出の意向を示すと思う。これを具体的に実現する方法を検討していかなければならない。
委員	● グランドデザインの概成版で色々なことが盛り込まれ、スケジュールなどの様々な要因がある中で、非常に難しいかじ取りをしていると感じている。それらの要因を一つ一つ、あるいはそれぞれ組み合わせてクリアしていき、最終的な落としどころを見据えて策定していただきたい。
委員	● 今まで知識面において色々な先生方から話をいただいたが、九州大学にとっては跡地の処分収入が移転事業の財源となるので、是非多くの応募が集まるまちづくりの取組みを行っていただきたい。
委員	● 箱崎キャンパス跡地は非常に規模が大きく、色々なことができる。今後10年経てば素晴らしいまちができていであろうと期待している。
委員	● グランドデザイン策定から跡地の引渡しまで、今後3～4年の空白時期がある。外から見ると跡地の状況がよく分からない状態になり、地域の方々や卒業生も非常に気になるため、情報発信を積極的にやっていただきたい。例えば、インターネットで跡地の状況を確認できるようにすれば、周りの方々も安心できるのではないかな。
委員長	● まとめとして、本日は主に以下の意見をいただいた。これらを踏まえなるべく早くまちづくりが実現する仕組みを考えていく必要がある。 ・九大の面影の残し方 ・イノベーションと高質で快適なライフスタイルの好循環の生み出し方 ・ソフトとハードの各々で目玉となるもの ・箱崎中学校跡地の活用 ・石積み遺構のシンボル化 ・情報発信のあり方

以上